

【法的根拠】
日本国憲法
教育基本法
学校教育法

学校の教育目標
・すすんで学ぶ生徒
・心の豊かな生徒
・健康でたくましい生徒

【地域の実情】
【学校の実情】
【生徒の実態】
【教師の願い】
【保護者の願い】

特別活動の目標	集団活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てるとともに、よりよい生き方をする力、自己を生かそうとする力を育てる。
目指す生徒像	○学級・学年での活動を通じて、集団の中で自分の持ち味を発揮する生徒 ○運動会、文化祭等の学校行事を通して、何事に対しても一生懸命に取り組む生徒 ○よりよい生き方を追求する生徒
特別活動の重点目標	学校生活全体の中で、望ましい集団生活を身に付けるために、生徒会活動や学校行事等で多くのことを体験させ、自発的・自治的な活動の充実を図る。

		学級活動	生徒会活動	学校行事
目標		楽しく豊かな共同生活を築くため、自主的自治的な集団生活の方法を身に付け、学校学級の生活の充実改善を目指す。	異年齢での諸活動を通じて、生徒一人一人が集団の一員としての自覚を高め協力しあう態度を養う。	楽しく豊かな共同生活を築くため、自主的自治的な集団生活の方法を身に付け、学校学級の生活の充実改善を目指す。
指導の方針		学校生活への適応や望ましい人間関係を構築するために、学級活動等の指導を工夫し、ガイダンス機能を充実させる。	広く社会に参加し協力できる能力・態度を養うとともにボランティア精神を育成するために、生徒の自主的・自発的な活動を充実させる。	・生徒の人権感覚の向上・社会性・豊かな心情を育むため、生徒の自主的・自発的な活動を充実させる。 ・人とのかかわりを基盤にし、SDGsの視点を取り入れた校外学習の実施。
主な指導内容		1 学級活動 ・学級内の仕事の分担と処理 ・意欲的な学習態度と学習不応の解消 ・話し合いによる諸問題の解決 ・班活動の活性化 2 学級指導 ・学校生活への適応 ・望ましい人間関係の確立 ※「いじめ」等への配慮 3 進路指導 ・的確な自己理解 ・進路の調査、研究 ・自己実現をめざす生き方の探求	1 専門委員会 ・学年、生活、環境、保健、給食、図書、放送 2 中央委員会 3 生徒会行事 ・新入生歓迎会 ・生徒総会 4 ボランティア活動 ・道路クリーンアッププロジェクト ・エコキャップ運動 ・ユニセフ募金活動 5 その他 各学校行事の実行委員会 …運動会 文化祭	1 儀式的行事 入学式、卒業式、離任式など 2 文化的行事 文化祭(合唱コンクール、作品展示) 3 健康安全・体育的行事 避難訓練、安全指導、運動会など 4 旅行的行事 校外学習、林間学校、修学旅行など 5 勤労生産・奉仕的活動 美化活動、清掃奉仕活動など 6 進路学習活動 職場体験、上級学校訪問など
各教科・読書科	他の教育活動との関連	・国語科では様々な優れた文章を通して自らの生き方や豊かな心情を学ぶ。社会科では人間の行っている事実を学ぶことで、よりよい社会の創造に貢献できる生き方を培う。また、芸術教科では心を豊かにし、感情表現力を養ったり、自己の内面を表現することを学ぶ。理数教科では、筋道を立てての思考を鍛え、問題を解決する能力や自然や生命を尊重していく態度を養う。	・生徒朝礼における発表や生徒総会、委員会における話し合い活動など、言語等による表現や発表などが重要である。こうした活動の基礎となる能力を、国語科や社会科をはじめ各教科の学習を通して培う。生徒会活動における自発的な実践活動によって各教科で培われる能力を発展的に一層高め、深める。	・文化祭については、合唱の部では音楽科の学習と関連を図る。展示の部では、美術科や技術・家庭科などの実技教科においても、生徒の学習成果の発表の場として活用する。 ・運動会については、保健体育科の学習成果の発表の場とする
特別の教科 道徳		・生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方について自覚を深め、思いやりのある豊かな心を持ち、自他ともによりよく生きるための力を育てる。また、人間尊重の精神を基盤とした生命や自然に対する畏敬の念を培うために、日頃から人と人とのかかわりを大切にしていく。	・自立の精神を学びよりよい学校生活を送れるように、委員会活動を中心に自ら活動する生徒を育てる。	・薬物乱用防止教室：生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。 ・文化祭：学校の一員としての自覚をもち、先生や仲間と敬愛の念を深め、協力する。 ・儀式的行事：日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
総合的な学習の時間		・問題に直面した際に、自ら判断して行動し、その結果を考えられる生徒を育てる。 ・SDGsについて知り、考え、表現する活動を通して、主体的に解決していく意欲や態度、具体的な解決に向けた技能を育成する。 ・「性的指向」「性自認」等に関わる人権課題について理解を深め、違いを認めて受容する能力を育む。	・自立の精神を学びよりよい学校生活を送れるように、委員会活動を中心に自ら活動する生徒を育てる。	・校外学習や宿泊行事、職場体験や進路学習などを中心に推進していく。
家庭や地域との連携		・自分を見つめ、生涯にわたって正しい生き方を追求していける姿勢を養うとともに、社会に貢献できる存在となる。 ・小中連携教育では、中学生が小学生に中学校生活のことを伝授する座談会を行い、小学校との連携を図る。	・必要に応じて校内の活動だけでなく、地域社会との連携を深めたりするなど、校外での活動への広がりを図る。(運動会、文化祭のポスター掲示依頼、地域清掃活動など)	・学校行事への参加を通して、人間としての生き方を学び社会性を身に付ける。また、社会の一員としての自覚をもたせる。 ・部活動体験会では、地域の小学生に部活動を体験してもらい、スポーツや文化的活動を通して、社会の一員であることの自覚をもたせる。
備考		学級経営及び生徒理解の充実 (ハイパーQUTESTの活用)	全員の協力 参加の促進	伝統を全校生徒に継承させるよう工夫する。